

心の栄養剤No.219 『あの世に行く時にされる質問』

ある中小企業の社長さんがある日、心不全か何かで心配が停止、意識不明の重体になった。救急救命士が来て必死に心臓マッサージをした。

その間、その社長さんは林の中を歩いていた。その林を出ると、きれいなお花畑に出た。周りを見渡すと、いろんな人がお花畑を歩いていた。

お花畑を過ぎると川のほとりに出た。その川の向こうが彼岸、俗に言う「あの世」である。その川幅は人によってまちまちで、10メートルの人もいれば100メートルの人もいる。また、渡り方もさまざまで、橋で渡る人もいれば、船に乗っていく人、泳いで渡る人などいろいろ。一旦、両足が岸から離れてしまうと、二度と戻ってはこれないそうだ。

さて、お花畑に出た社長さんの耳に不思議な声が聞こえた。「あなたが今まで送ってきた人生とはどういう人生だったか、それについて質問されるから川べりに着くまでまとめて置くように」

お花畑を歩きながら社長さんは、「あんなこともしたなあ」「こんなこともしたなあ」と、自分の人生を振り返った。そして今までやってきた業績をまとめていった。

川べりに着くと、こんな声が聞こえてきた。「あなたは自分の人生をどれくらい楽しんでできましたか？」

社長さん、はて？と困り果ててしまった。やってきた業績についてはいくらでも話せると思って、意気揚々と川べりまで歩いてきたのだが、神様が聞いたのは業績ではなく、「どれくらい人生を楽しんできたか」ということだったのだ。

その声の主は、業績などまったく関心がない様子だった。いくら考えても「楽しくやってきた」という記憶がなかった。じっと黙っていたら、「あなたは人生を楽しんでこなかったのですね」と言った。「はい」と言うと、「あなたの人生は失敗です。もう一度やり直し！」と言われた。

その瞬間、社長さんは息を吹き返し、この世に戻ってきた。その日から社長さんは人生を楽しく生きることに切り替えた。

そのとき、「楽しく生きるということは、自分がどれほど周りから喜ばれているかである」ということを教えられた。

なるほど、楽しい人生とは、ただ能天気生きる快樂主義ではなく、**「あなたがいて良かった」**と言われる人生を送ること。

周囲の人から「ありがとう」と言われるような生活に心掛けてみよう。

あのマザーテレサも、あのスラムと化した街の中で、貧困を恨んだりするのではなく、自分の存在が必要とされている喜びに満たされていたのではないだろうか。

「楽しさ」とは、日常の中の親子や夫婦、友だち、お客さん、同僚など、周りの人間関係の中に見出すものだ。そういう人たちと楽しい思い出をたくさんつくろう。いつか**「この世」**をちゃんと卒業できるために。

お正月は、静粛な気分で自分の人生を振り返り～反省しつつ、新たな目標～生き方を決めよう～変えようとする時期でもあると思います。

そんな中、私もこの社長さんのように周りの人から『あなたがいてくれて良かった』と思われる事を、人生を楽しく過ごすテーマとして生きていきたいと思います！！

PS：本年もくすりのキュート同様「心の栄養剤」も、よろしくお付き合いいただければ幸いです。

※皆様が元気と笑顔の素晴らしい一年を過ごされます事を願い、祈ります。

くすりのキュート 倉光 浩城

※ご相談がございましたら、いつでもお電話くださいませ😊

TEL (090-8357-2904)

